



「CS教師の資質④ 柔軟さ」

国立キリスト教会教育担当牧師 本澤 敬子

CS教師には子どもたちを受け入れる柔軟さが必要です。子どもたち一人一人の個性や環境を受け入れるためには、私たち自身のもつ価値観や相違点とのすりあわせや妥協の作業を要しますが、それは時には決して容易なことではありません。今回は特に、子どもの持つ文化にどう対処したらよいか学びたいと思います。

1. 子どもの文化を理解する

子どもたちがもっている文化を理解することは、聖書の価値観を子どもたちの生活に適用させるときに欠かすことができません。そうでないと、私たちの語る聖書はいつも原則ばかりで、子どもたちの頭の上を素通りしてしまいます。

まず最初に子どもたちの文化を知ることから始めましょう。それには自分ももっているイメージや先入観をできるだけ取り除いて、まずは体験してみることです。子どもたちが日常接している様々な文化—テレビ、アニメ、ゲーム、マンガ本、雑誌、本、インターネット、音楽、スポーツなど—に実際に触れてみましょう。すると、なぜ子どもたちがそれに惹かれるのか、なぜそんなに夢中になるのか、理解することができるでしょう。

2. 子どもの文化を吟味する

理解することと、それをすべて受け入れることは違います。オカルト的な考えや、ニューエイジと呼ばれる思想が背後にあったり、あきらかに不道德な要素がふくまれているものもあります。子どもはそれを吟味する基準を持っていません。神様に喜ばれるかどうか、吟味し、それを伝えることは教師の大切な役割の一つです。

吟味する側にも必ず先入観が入ります。たとえば、音楽のジャンルでも、大人がもつイメージと今の子どもがもつイメージには大きなギャップがあります。子どもたちの視点に立ってみることも必要です。

また、内容と手段・方法は分けて吟味しましょう。まず、何を伝えようとしているのかを吟味することが先決です。また、子どもの発達も考えて、この年齢の子どもたちはここからどんなメッセージを受け取るか、と考えることも大切です。

もちろん、内容がよくてもそれを伝える手段や方法がよくないということもあります。活字かマンガか、童謡か速いリズムの曲か、というように、吟味する側の個人差もあるでしょう。また逆に、内容は受け入れられないが、方法については学ぶことができるものもあります。何より吟味には正しい基準が必要です。

3. 問題のないものは受け入れる

基本的には、聖書的に問題がない限り、それらは文化として受け入れましょう。しかし、もし問題があると結論がでるなら、子どもたちにそれを伝えましょう。頭からだめだというのではなく、聖書に照らし合わせて話し合ってみることも必要かもしれません。逆に問題ないものは、子どもたちの魂を獲得するために、CSに取り入れることも有効です。

パウロは、その人々の持つ文化に対してとても柔軟に対応しました。「弱い人々には、弱い者になりました。…それは、何とかして、幾人かでも救うためです。」(第Iコリント9章19—23節)

子どもたちは年齢が大きくなるほど、自分のもつ文化を否定されると、自分を否定されるように感じます。子どもたちが心を閉じたら、私たちの語るみことばは彼らの心に届かないのです。福音のために文化を使う知恵が必要です。

ディスカッションガイド

①子どもたちがどんなテレビ番組を見ているか、どんな音楽を聴いているか知っていますか。あげてみましょう。知らなければ直接聞いてみましょう。

②それらを吟味しましょう。

③問題のあるものは、子どもたちにそれを伝える方法を考えましょう。また問題ないものを、福音のために使うことができるかどうか考えてみましょう。